

目的

次代を担う子供たちに対して、民俗芸能、工芸技術、邦楽、日本舞踊、茶道、華道、囲碁、将棋などの伝統文化や生活文化等を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供することにより、伝統文化等を確実に継承・発展させるとともに、子どもたちの豊かな人間性の涵養を図る。
また、組織的・広域的に体験機会を提供する取組を支援することで、地域偏在の解消等、より多くの子供たちが体験機会を得られるようにする。

1. 教室実施型 1,106百万円(1,106百万円)

参加対象：地域に在住する親子等
（子供のみが対象の教室も可）

実施主体：伝統文化等に関する活動を行う団体（伝統文化関係団体）等

実施方法：全国の伝統文化関係団体を対象に募集し有識者審査を経て決定

「放課後子供教室」と連携した体験機会を提供

支援事業数：約3,800教室



2. 地域展開型 95百万円(95百万円)

・実施主体 地方公共団体

・対象事業

地方公共団体が地域の指導者や文化施設等と連携し、子供たちが地域の伝統文化や生活文化等を体験等できる機会を設ける事業を支援

・令和3年度予算（案）

95百万円（40地域）

3. 統括実施型 150百万円【新規】

・実施主体 統括団体等

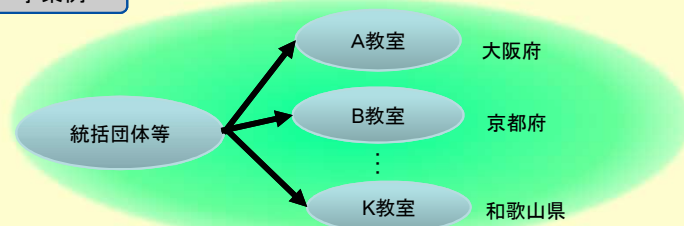
・対象事業

子供たちが伝統文化や生活文化等を体験・修得できる機会を設ける広域的な統括団体等の事業を支援

・令和3年度予算（案）

150百万円（15,000千円×10件）

事業例



会場に、様々な伝統文化や生活文化等を学習・体験できる場所を用意し（ブースの設置等）、来場した親子が伝統文化の多様な魅力を体験してもらうイベント

調査研究及び審査経費等 92百万円(92百万円)

教室に参加した子供や保護者、指導者を対象に事業実施について調査等を行うとともに、その結果を教室の実施団体に還元し、事業の改善や更なる効率的・効果的な実施に繋げる。

趣旨

コロナ禍において、次代を担う子供たちに対して、伝統文化や生活文化等を体験・修得できる機会を提供し、伝統文化等を確実に継承・発展させるとともに、子供たちの豊かな人間性の涵養を図る。

事業概要

新型コロナウイルス感染症により、伝統文化親子教室の参加の機会が失われた子供たちの体験・修得の機会を早急に回復するための事業を支援する。

コロナ禍による影響

- ・感染症防止対策が十分にできないことから指導者が教室の回数や規模を縮小した
- ・指導者が高齢のため、オンライン教室などの実施ができなかった
- ・時間割の変更や長期休みの短縮などで子供たちが教室に参加できなかった など



- ・伝統文化等に接する機会が失われた子供たちの体験・修得の機会の早急な回復
- ・伝統文化等を体験・修得できる機会を提供することができる関係団体による、早急かつ効率的な教室の実施
- ・オンライン教室を含め、組織的・広域的に展開できる体制

が必要

伝統文化を体験・修得する機会が失われている

支援内容

- ・関係団体や自治体などが連携した実行委員会等による事業の実施を支援
- ・指導者個人では難しいオンラインでの指導等を広域的に行う教室など、これまでの実施形態に限らない様々な取組を支援 等

